

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度 (和暦) 令和2 (西暦) 2020	年度	②採択期間 (通常A型は5年以 内、B型は3年以 内)	5	年間 (1年未満は 切上げ)	③事業の型 (AまたはBを記入)	A型
④日本側拠点機関名 (和文)	熊本大学					
⑤研究交流課題名 (和文)	ストレス造血と白血病病態解析のための基礎・臨床研究共同体の構築					
⑥課題番号	JPJSCCA20200008					
⑦コーディネーター所属部局名・ 職名・氏名 (和文)	国際先端医学研究機構・特別招聘教授・指田 吾郎					
⑧日本側協力機関名 (和文) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)						
金沢大学						
九州大学						
宮崎大学						
東京大学						

⑨参加研究者数内訳 (様式12 参加研究者リスト に準じてください。重複カ ウントしないこと。)	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポストドク等 若手研究者	大学院生	参加資格の ない者 (⑩に内訳をご記入くださ い。手引き2-4参照。)	合計	第三国所属の研究者 (内数) (⑪に内訳をご記入くださ い。)
拠点機関	7	11	11	9	0	38	0
協力機関・協力研究者	12	10	0	0	0	22	0
合計	19	21	11	9	0	60	0

⑩手引2-4記載の参加資格のない者の内訳 (適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)		
所属・職	専門分野	研究交流での役割
該当なし		

⑪「第三国所属の研究者」内訳 (平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)			
所属機関所在国・ 所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を 確保する方法
該当なし			

2. 経費

事業の型		A型	
①当該年度の本事業による経費の支出			
経費内訳	金額	(単位:円)	備考
研究 交 流 経 費	国内旅費※1	787,380	
	外国旅費※1	3,173,801	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	8,627,265	
	その他経費	821,554	
	不課税取引・非課税取引 に係る消費税 ※2	0	大学にて別途負担
	計	13,410,000	
業務委託手数料	1,341,000		研究交流経費の10% (1円未満切捨)。消費税額は内額とする。
合計	14,751,000		

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税(免税)の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費(総額)の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

新型コロナウイルス感染症流行の影響で国内外共に移動が制限され、国内旅費、外国旅費を執行することが難しかったため、共同研究に使われる次世代シーケンス解析に不可欠なライブラリーDNAやRNAの品質分析機器、次世代シーケンス機器用の解析試薬等を購入した。

③ 日 本 側 の 旅 費	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額(単位:千円)		3,961	
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額(単位:千円)	日本→日本以外の渡航		0
		日本以外→日本の渡航		0
		日本以外→日本以外の渡航		0
④ (単 位: 千 円) (B 型 の み) (本 事 業 の 旅 費 に よ る 総 額)	日本または相手国 →日本の渡航	(単 位: 千 円) (左 記 の うち、 第 三 国 所 属 の 相 手 国 側 の 旅 費 の 総 額)	日本または相手国 →日本の渡航	
	日本又は相手国 →相手国の渡航		日本又は相手国 →相手国の渡航	
	日本または相手国 →第三国の渡航		日本または相手国 →第三国の渡航	
	第三国→ 日本の渡航		第三国→ 日本の渡航	
	第三国→ 相手国の渡航		第三国→ 相手国の渡航	
	第三国→ 第三国の渡航		第三国→ 第三国の渡航	

※旅費は、往復の金額で記載すること(例:第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載)。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤(B型で平成31年度以前の採択課題のみ)中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合(交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

総額(単位:千円)	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明

⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)(単位:千円、千円未満切捨て)

全相手国のマッチングファンド総額 (1年間の金額)	マッチングファンドのある相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均額 (1年間の金額)
32,740	4	8,185

3. 共同研究・セミナー

事業の型		A型							
①共同研究（適宜、行を加除すること。）				現在の年度に○を付けること→					
共同研究 整理番号	共同研究課題名（和文）	相手国	1年目	2年目	3年目	A型のみ			
			実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓		
R 1	造血幹細胞およびその微小環境（ニッチ）の相互作用	スウェーデン	○	○	○	○	○	○	○
R 2	造血幹細胞の老化とがん化	ドイツ、米国、英国	○	○	○	○	○	○	○
R 3	白血病のクローン進展と成人T細胞白血病の病態解析	英国	○	○	○	○	○	○	○

共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引5-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）

本研究交流事業の目的は、熊本大学における造血と血液疾患研究の基盤をもとに、世界をリードする研究を展開するための研究拠点を形成することであった。始めに、国内協力機関と海外拠点機関からなる造血・白血病の研究共同体を構築するために、海外機関とともに、パンデミックの状況下、計3回のオンラインセミナーと2022年1月のハイブリッドセミナーを開催した。こうしたセミナーを通じて、この研究室が先導する造血幹細胞を中心とする基礎研究と、造血器腫瘍の基礎・臨床研究が進められた。実際、大学院生、若手研究者の海外派遣も実施することができた。具体的には、

R1
造血幹細胞およびその微小環境の相互作用については、造血細胞と骨髄の解析技術の開発の打ち合わせを行い、造血不全や幹細胞のタンパク質動態制御などの共同研究を開始した。令和3年5月には、レント大学の研究者との間でオンラインシンポジウムを実施して、造血幹細胞と微小環境の相互作用による造血や白血病に関する活発な質疑応答が行われた。令和4年度以降、現地の拠点機関への派遣を進め、スウェーデン・レント大学での共同研究の実施を予定している。

R2
造血幹細胞の老化とがん化については、骨髄イメージング開発のためのドイツへの派遣、クロマチン構造解析技術の意見交換のための米国NIHへの派遣が実施できた。T細胞白血病の病態解析のための米国への短期派遣も合わせて実施できた。さらに、米国拠点機関のHuang博士のもとに、熊本大学の若手研究者が研究員として採用され、白血病のがん免疫療法や造血不全を対象とした中長期にわたる共同研究体制を整えた。困難な状況ではあったが、本事業の研究課題である「ストレスと老化・がん化」を理解するために、ドイツ、米国の拠点機関との連携を推進できた。今後、ストレス造血と白血病の病態研究を加速する。

R3
白血病のクローン進展と成人T細胞白血病の病態解析については、拠点機関であるインペリアルカレッジ・ロンドンとの事業開始以前から続く共同研究や新規研究のための打ち合わせを実施した。令和3年3月には、インペリアルカレッジ・ロンドンの研究者とオンラインシンポジウムを実施した。熊本大学を含めた日本側研究者との間で、成人T細胞白血病の病態研究に関して活発な質疑応答が行われた。令和4年度以降、新たに確立した共同研究の推進とともに、米国やスウェーデンとの白血病の共同研究とも連携して、現地の拠点機関での共同研究を進める。また、パンデミックの収束と海外渡航の正常化とともに、熊本大学を中心としたさらなる人的交流、最先端の造血解析技術の支援なども含めた研究拠点の体制を整えていきたい。

②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。）				
セミナー	セミナー名（和文）	セミナー名（英文）	開催地（国名・都府県・会場）	開催期間（心印の月日～心印の月日（心印日））
S 1	日本学術振興会研究拠点形成事業「キックオフシンポジウム」	JSPS Core-to-Core Program A. Advanced Research Networks Kick-off Symposium	日本	中止
S 2	-	Virtual Mini Symposium	オンライン	2020年11月11日（1日）
S 3	-	Virtual Mini Symposium on HTLV-1 Leukemogenesis	オンライン	2021年3月12日（1日）
S 4	-	Virtual Mini Symposium on Immunity	オンライン	2021年5月27日（1日）
S 5	-	Symposium on Hematopoiesis and Leukemia	日本（熊本市・熊本大学IRCMS）	2022年1月13日～2022年1月14日（2日間）

セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引5-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）

国内協力機関と海外拠点機関とともに、計3回のオンラインセミナーと2022年1月の熊本大学での対面・オンラインのハイブリッドセミナーを開催した。

S1 キックオフシンポジウム：中止（新型コロナウイルス感染症の世界的流行のさなかで開催の計画が立てられなかったため。）

S2 11/2020 74名、米国：5名 日本：68名 その他：2名 造血幹細胞の代謝制御と、その破綻によるがん化というテーマのもと、4名の発表者（IRCMS 2名、米国拠点機関であるシンシナティ小児病院メディカルセンター2名）による発表が行われた。日米から70名を超える参加者が、発表者と活発に議論を行った。

S3 3/2021 68名、スウェーデン：1名 英国：3名 ドイツ：2名 日本：60名 その他：2名 「HTLV-1 Leukemogenesis」というテーマのもと、4名の発表者（熊本大学2名、英国拠点機関であるインペリアルカレッジロンドン2名）による発表が行われた。日英から80名を超える参加者が、発表者とHTLV-1ウイルス感染による白血病発症の仕組みに関して議論を行った。

S4 5/2021 63名、スウェーデン：8名 日本：52名 その他：3名 幹細胞と免疫細胞の関連というテーマのもと正常造血と白血病に関して、4名の発表者（IRCMS 1名、拠点機関であるスウェーデン・レント大学2名、オランダ Erasmus MC 1名）による発表が行われた。日欧から60名を超える参加者が発表者と活発に議論を行った。

S5 1/2022 70名、スウェーデン：2名 英国：1名 日本：64名 その他：3名 「造血と白血病」というテーマのもと、17名の発表者（国内機関研究者14名、海外機関研究者3名（スウェーデン、英国とシンガポール））による発表が行われ、国内外から約70名の参加者がオンライン・オンライン形式で参加し、発表者と活発に議論を行った。複数のグループ間で、共同研究の打ち合わせと新たな研究の立ち上げの相談が行われた。

さらに、大学院生、若手研究者の海外派遣を実施することができた。骨髄イメージング開発のためのドイツへの派遣、クロマチン構造解析のための米国NIHへの派遣、T細胞白血病の病態解析のための米国への派遣であった。さらに、米国拠点機関のHuang博士のもとに、熊本大学の若手研究者が研究員として採用され、中長期にわたる白血病病態解明と治療のための共同研究体制を整えた。成果として、交流を通じて構築された共同研究体を基盤に、本事業からの支援も通じて、さらなる研究の進展と学術論文などの発表が期待できる。

③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況 (セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7参照のこと。)
該当なし
④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット (セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引3-4(1)①参照のこと。)
該当なし

4. 研究交流状況

事業の型 A型							
①日本→海外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除すること。)							
国名(派遣先) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 ドイツ(マックスプランク心臓研究所)	0	1	0	0	0	1	1(助教・准教授等1)
2 米国(NIH)	0	1	0	0	0	1	1(助教・准教授等1)
計	0	2	0	0	0	2	
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)							
該当なし							

②海外→日本の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣元) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)							
該当なし							

③日本以外→日本以外の渡航数(本事業経費による渡航) (①、②の合計数の半数以下とすること。適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名(派遣元)	国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし							0	
計		0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)								
該当なし								

④海外→日本の渡航数(相手国側経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣元)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計	
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	

⑤日本→海外の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計	
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	

5. 交流相手国

事業の型 A型	
①相手国名 (和文)	スウェーデン
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：ルンド大学 英文：Lund University	
③コーディネーター所属 所属局名・職名・氏名 (英文)	Division of Molecular Medicine and Gnen Therapy, Lund Stem Cell Center・Professor・LARSSON Jonas
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：カロリンスカ研究所 英文：Karolinska Institutet	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	2	0	0	0	0	2	
協力機関・協力研究者	0	2	0	0	0	2	
合計	2	2	0	0	0	4	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：-		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考： 日本側研究交流経費 13,410			
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位:千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	-	Swedish Research Council (VR)	Defining regulators of hematopoietic stem cells	0		SEK	
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	-	Swedish Research Council (VR)	Defining regulators of hematopoietic stem cells	0		SEK	
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	-	Swedish Research Council (VR)	Defining regulators of hematopoietic stem cells	0		SEK	
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	-	Swedish Research Council (VR)	Defining regulators of hematopoietic stem cells	0		SEK	
(5)相手国側研究者の研究経費	◎	Swedish Research Council (VR)	Defining regulators of hematopoietic stem cells	1,620	2022/3/31	SEK	12.97円
(6)相手国開催のセミナー開催経費	-	Swedish Research Council (VR)	Defining regulators of hematopoietic stem cells	0		SEK	
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		1,620			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A型	
①相手国名 (和文)	ドイツ
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：ドイツ癌研究所 英文：German Cancer Research Center	
③コーディネーター所属局名・職名・氏名 (英文)	HI-STEM・Professor・TRUMPP Andreas
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	1	2	0	0	0	3	
協力機関・協力研究者	1	0	0	0	0	1	
合計	2	2	0	0	0	4	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名 (専門分野)			研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)				
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット		研究交流に不可欠な理由		
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：-	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)						※参考： 日本側研究交流経費	
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)	13,410	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1							
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	-	HI-STEM gGmbH and German Cancer Research Center (DKFZ)	Stem Cell Aging	0		EUR		
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	-	HI-STEM gGmbH and German Cancer Research Center (DKFZ)	Stem Cell Aging	0		EUR		
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	-	HI-STEM gGmbH and German Cancer Research Center (DKFZ)	Stem Cell Aging	0		EUR		
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	-	HI-STEM gGmbH and German Cancer Research Center (DKFZ)	Stem Cell Aging	0		EUR		
(5)相手国側研究者の研究経費	◎	HI-STEM gGmbH and German Cancer Research Center (DKFZ)	Stem Cell Aging	12,000	2022/3/31	EUR	134.81円	
(6)相手国開催のセミナー開催経費	-	HI-STEM gGmbH and German Cancer Research Center (DKFZ)	Stem Cell Aging	0		EUR		
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		12,000				

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A型	
①相手国名 (和文)	英国
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：インペリアル・カレッジ・ロンドン 英文：Imperial College London	
③コーディネーター所属 所属局名・職名・氏名 (英文)	Faculty of Medicine・Professor・BANGHAM Charles
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：ケンブリッジ大学 英文：The University of Cambridge	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	1	1	0	0	0	2	
協力機関・協力研究者	3	2	0	0	0	5	
合計	4	3	0	0	0	7	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：－	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考： 日本側研究交流経費 13,410			
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1					
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	－	Wellcome Trust	Human retroviral latency: regulation and dynamics at the single-cell level	0		GBP
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	－	Wellcome Trust	Human retroviral latency: regulation and dynamics at the single-cell level	0		GBP
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	－	Wellcome Trust	Human retroviral latency: regulation and dynamics at the single-cell level	0		GBP
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	－	Wellcome Trust	Human retroviral latency: regulation and dynamics at the single-cell level	0		GBP
(5)相手国側研究者の研究経費	◎	Wellcome Trust	Human retroviral latency: regulation and dynamics at the single-cell level	9,120	2022/3/31	GBP 160.08円
(6)相手国開催のセミナー開催経費	－	Wellcome Trust	Human retroviral latency: regulation and dynamics at the single-cell level	0		GBP
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	－	合計		9,120		

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金 (基盤的経費を含む) をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A型	
①相手国名(和文)	米国
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: UTヘルス サンアントニオ 英文: UT Health San Antonio	
③コーディネーター所属 所属局名・職名・氏名 (英文)	Joe R. & Teresa Lozano Long School of Medicine・Professor・HUANG Gang
④協力機関名(和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	3	0	6	0	0	9	
協力機関・協力研究者	2	1	0	0	0	3	
合計	5	1	6	0	0	12	
⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名(専門分野)			研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)				
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット		研究交流に不可欠な理由		
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)						※参考: 日本側研究交流経費	
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)	13,410	
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること	1							
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	-	National Insitute of Health (NIH)	Role of the Hypoxia-inducible factor-1 alpha in Myelodysplastic Syndrome	0		USD		
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	-	National Insitute of Health (NIH)	Role of the Hypoxia-inducible factor-1 alpha in Myelodysplastic Syndrome	0		USD		
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	-	National Insitute of Health (NIH)	Role of the Hypoxia-inducible factor-1 alpha in Myelodysplastic Syndrome	0		USD		
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	-	National Insitute of Health (NIH)	Role of the Hypoxia-inducible factor-1 alpha in Myelodysplastic Syndrome	0		USD		
(5)相手国側研究者の研究経費	◎	National Insitute of Health (NIH)	Role of the Hypoxia-inducible factor-1 alpha in Myelodysplastic Syndrome	10,000	2022/3/31	USD	121.78円	
(6)相手国開催のセミナー開催経費	-	National Insitute of Health (NIH)	Role of the Hypoxia-inducible factor-1 alpha in Myelodysplastic Syndrome	0		USD		
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		10,000				

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。